

2000人を超えるランナーがくびき野の山や里を力走

2012えちご・くびき野100キロマラソン

日は照らず、風はちよっぴり。2012えちご・くびき野100キロマラソンは6日、秋空の下で行われ、50キロの部、100キロの部、合計で2000人を超える選手のみなさんがくびき野の山や里を走り抜けました。

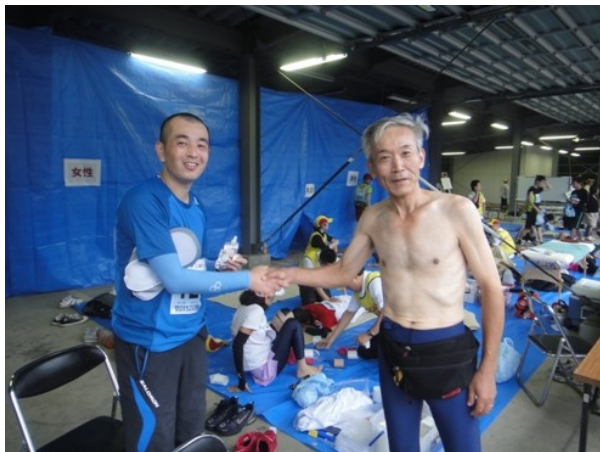
私は県立吉川高等特別支援学校の学習発表会の午前の部に参加した後、吉川区総合事務所前で選手のみなさんの応援をしました。

最初のランナーが事務所前を通過したのは午前11時14分。スタートしてから5時間46分で吉川区総合事務所前（距離はスタートから約78キロ）に来てくれたことになりました。



で続きました。上の写真は第3位で事務所前を走る樋口航選手、上越市出身の選手の中では一番早かった人です。

次々と選手が通過するなかで応援に力が入るのはやはり顔なじみの選手、地元選手です。市役所職員の山岸秀一さん



私の応援はこの人から始まって夕方最終ランナーまで

今回の大会を支えたのはボランティアの皆さんです。

交通整理、記録、食事の提供、救護などで多くの皆さんが活躍されました。この人たちの支えなしに大会の成功はありませんでした。大きな拍手を送ります。

新井和人さん、市議の近藤彰治さん、地元出身の市村雅幸さん、小池修さん、中村学さん、布施智之さんなどが入ってくると気持ちが高ぶりました。真ん中の写真は市村雅幸さんと煤田英樹さんです。

実行委員会本部前やエイドなどでは今回もいろいろなドラマがありました。親に内緒でレースに参加した息子をずっと待ち続けている父親がいました。若いお父さんの到着を喜び、本部前で一緒に走り始める子どもたちがいきました。かく言う私も思いがけない人から声をかけていただいたりして感激の場面がありました。



今回の大会を支えたのはボランティアの皆さんです。

交通整理、記録、食事の提供、救護などで多くの皆さんが活躍されました。この人たちの支えなしに大会の成功はありませんでした。大きな拍手を送ります。

今年度の地域支えあい体制づくり事業で小型除雪機購入補助が決まった集落名一覧

区名	集落名
金谷区	中ノ俣
安塚区	伏野
安塚区	信濃坂
浦川原区	上猪子田
大島区	仁上
大島区	菖蒲西
大島区	牛ヶ鼻
大島区	田麦
牧区	切光
吉川区	坪野
吉川区	尾神

素敵な絵、そして、萌さんのような文章がよかったです。



いとまはスポーツの秋であると同時に芸術の秋でもあります。高田の町で開かれ、倉国川在住の大口昭治さんと娘婿の満さん、孫の萌さんの親子三代展を観てきました。親子の支え、熱い交流、清らかな水

素敵な親子三代の絵画展



【シラネセンキュウ】セリ科。山地の日陰、溪流沿いなどに生育し、9月から11月にかけて細かな白い花を咲かせます。毎年、一度はあいたくなる野の花です。写真は9月下旬、柿崎区の米山登山道にて撮影しました。

春よ来い 第二二二回 センナリホウズキ

先日、安塚区へ行った時の帰り道、ほくほく線浦川原駅の近くにある物産館に立ち寄ったところ、小さなホウズキが目にとまりました。出荷者は大島区下達のTさん。ホウズキを見ただけで、なぜか懐かしくなって買い求めました。

小さな袋に五〇個くらい入ったホウズキ。一つひとつを見ると、ギンナンくらいの大きさと、ごく薄い黄色の袋に包まれています。「これ、なんというものですか」と店員さんにと訊くと、「〇〇〇〇ホウズキです。畑で熟すと実が落ちるんです。甘酸っぱくなつて、美味しいんですよ」という言葉が返ってきました。

この時、店員さんは自分の頬のところ両手を持って行き、食べると顔全体に甘さが広がっていくようなかわいい仕草（しぐさ）をしました。それが強く印象に残り、家に戻るまで我慢できませんでした。袋を破いて一、二個食べてしまったのです。食べると確かに甘い。でも、この甘さはどこかで味わったことがあります。いったいどこで食べたのだろう。思いだそうとしましたが、その日はとうとう思い出すことができず、私の公開日記には「思い出せませんでした」と書きました。

それが功を奏して、数日後、友人のJさんに会った時、「橋爪さん、あのホウズキを食べたが、私んちだったんだね。忘れなかったが」と言われたのです。Jさんからは、このホウズキが「センナリホウズキ」と呼ぶことも教えてもらいました。一本の茎に何本もの枝がついて、実が千個までとはいかなくても、ものすごくたくさんなるのでそう呼ぶのだそうです。

さらに数日経って、高田公園内の建物で、七〇代のIさん夫婦、それに三人の職員さんたちと一緒に話し合いをした時のことです。話し合いがほぼ終わってから、「これ食べてみなんねかね」とセンナリホウズキを勧めたところ、みんな、めずらしそうにしながら、皮をむいて黄色い実を口に運びました。

最初に、「わー、甘い」と言って笑顔を見せてくれたのはIさんの奥さんでした。職員さんたちも、「これって、この間の日記に載っていたものですよね」などと言いながら、味を確かめるように食べていました。子どものように喜ぶお連れ合いの姿を見ていたIさんですが、Iさんは落ち着いた表情で、「これ、おまえさんの実家の庭にあったねか」と言います。でも、お連れ合いはなかなか思い出せないようでした。センナリホウズキはかなり前から農家に広がっていたのかも知れません。

こうなると、畑や庭に植わっているセンナリホウズキの実際の姿を見たくありません。ある日の早朝、Jさん宅を訪ねたとき、お連れ合いが案内してくださいました。「ここだよね」と言って案内された場所は庭の一角です。ここにセンナリホウズキが植わっていました。普通のホウズキと違って、横に枝が広がり、実はそれこそ鈴なりでした。熟した実は、一定の時間が経つと地面に落ちます。落ちた実は、私が購入したものと同じ色になっていて、二〇個、いや三〇個はありました。

お連れ合いの説明によると、センナリホウズキは強健で、どんな広がつていくのだそうです。実は緑色ですが、落ちてからは次第に薄黄色へと変わっていきます。落ちた実を食べてみたら、やはり、甘酸っぱくて、いくつも食べてしまいいそいでした。センナリホウズキと再会し、いろんなことを教えてもらい、この実がすっかり気に入りました。見てもよし、食べてもよし。小さな実を見てもらうだけで次々と話が広がっていき、食べれば甘さとともに幸せも広がっていく。そんな感じがするのです。

スマイル全開！吉川高等特別支援学校で学習発表会

夢を追い続ける生徒たちはどうしているだろうか。どれだけ成長しただろうか。6日、昨年開校したばかりの新潟県立吉川高等特別支援学校の学習発表会を見に出かけてきました。学習発表会は昨年に続いて2回目、昨年以上に大勢の人たちが同校

に集まりました。10時から始まるスマイルカフェの前に校長の赤松先生から会場を案内していただき、今年度のスマイルカフェやハッピーカフェの取組、ビル清掃などの各種検定のことなどを教えてもらいました。「接客を身につけることは、どんな仕事にも役に立ちます」「生徒が目標を持って取り組むためにもいろんな検定に積極的に取り組んでいます」という先生の言葉が印象に残りました。

生徒たちが清掃検定を受けていることをこの日、初めて知りました。「ビル清掃実

演」では1級、3級の検定合格の生徒が実演していました。モップなどは音をたてないようにと、動かし方にもルールがあるんですね。写真の生徒は1級の生徒です。ごみがきれいに一列になって真ん中に集まってく様子を見て、これはたいしたものだと思います。

午後の「ステージ発表」、昨年よりも大きく増えて30人になった生徒たちが繰り広げてくれた演奏やダンスにうっとりしました。会場には旧吉川高校時代の先生も数人来ておられました。みんな、生徒たちがどうしているか気になるのでしょね。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月3日(水)	10月10日(水)
上越南消防署	0.046	0.040
上越北消防署	0.043	0.050
新井消防署	0.050	0.060
頸北消防署	0.040	0.053
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.047	0.050
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.043	0.040

